

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2013年5月9日

[テーマ] 円安に適応する館林の食料品

ゴールデンウィークの前に館林のつつじが岡公園を訪れ、三分咲きのつつじを鑑賞した。地元の方々によると、今年は例年になく花芽の生育や枝の伸びが悪いそうだ。とはいえ、中には色鮮やかに咲く花もあって、つつじの名所にふさわしく華やかな雰囲気にも包まれていた。

館林市は、上毛かるたに詠まれる「つる舞う形の群馬県」の鶴の頭部にあたり、近年、日本一暑いまちとしても有名だ。明治期に鉄道網が整備されたこともあって、近隣県とのつながりも深い。主力産業の食料品は、醤油やうどんを製造する地元企業だけでなく、乳酸飲料やヨーグルト、調味料や即席めんなど全国的に有名な食料品メーカーの工場が立地している。肥沃な土壌や長い日照時間、豊富な水や比較的安い地価などの利点があるからだろう。汲み続けても湯がなくなると伝わる茂林寺の分福茶釜は、利根川や渡良瀬川などの豊富な水資源を抱える館林ならではの寓話とも言える。

#### ◆ 館林市の工業

	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
全体	232ヶ所	7,747人	2,886億円
うち食料品	25ヶ所	1,924人	1,058億円

「館林市統計書・平成24年版」より

その食料品業界では、円安などを背景に原材料の仕入れ価格が上昇しており、企業にとってコストアップ要因となっている。結果として、業務用小麦粉や家庭用食用油などの値上げが相次いで決定されており、今後、食料品を使う飲食店などへの影響も懸念されている。3月の日銀短観の調査結果をみても、仕入れ価格の上昇を見込む動きが目立っている。

#### ◆ 日銀短観の価格判断D.I. (全産業)

「上昇」－「下落」、ポイント、▲はマイナス

		2012年12月	2013年3月	6月 (予測)
仕入価格	全国	7	20	30
	県内	6	18	36
販売価格	全国	▲18	▲12	▲9
	県内	▲16	▲10	▲9

日本銀行、日本銀行前橋支店調査より

アベノミクスと呼ばれる新政権の経済政策の影響もあって円安株高が進み、企業や家計のマインドは改善している。ただ、円安は、輸出企業の価格競争力を高める一方、輸入企業に対しては収益を圧迫しかねない。円安による経済全体へのプラスとマイナスの影響を、やや長い目で点検することが必要だろう。

館林の食料品業者は、過去の円安局面においても、高い適応力を発揮してきた。製粉ミュージアムでは、小麦粉の製粉工程で使われる機械（小麦を細かく砕くロール機、小麦の粒を大きさ別にふるい分けるシフター、表皮を取り除くピュリファイヤー）が展示され、省力化やコストダウン、品種改良に果敢に取り組んできた先人たちの足跡をうかがうことができる。

館林市内の尾曳<sup>おびき</sup>という町名は、要害堅固の館林に城を建てるようキツネの導きがあったことにちなんでいるそうだ。館林の地の利をアピールして地元経済の活性化につながる工場誘致などを進めるとともに、食料品業者が円安への適応力を一層高めていくことを期待したい。

（ 日本銀行前橋支店長  
相良 雅幸 ）